

日仏東洋学会通信

第九号

Circulaire de la Société franco-japonaise

des Etudes orientales, No. 9 septembre 1988

一九八八(昭和六三)年九月発行

目次

渋沢・クロードル賞を坪井善明会員が受賞……………	1
一九八七年度会員総会報告	
コロックの準備状況 会計報告	
日仏学者交換事業に関する候補者推薦について	
その他……………	4
「儒教とアジア社会」シンポジウム……………	8
第五回日仏コロックについて……………	8
第五回日仏学術シンポジウム参加部門……………	9
会員消息(新入会員、住所変更、新刊紹介等)……………	9
東洋学関係雑誌一覧……………	11
新・会員名簿作製について……………	12
編集後記……………	12

渋沢・クロードル賞を

坪井善明会員が受賞

毎日新聞社と日仏会館共催の第五回「渋沢・クロードル賞」受賞者に、坪井善明(つばい・よしはる)北海道大学法学部教授が選ばれました。また、本年もルイ・ヴィトン・ジャパン社から「特別賞」が出されることになり、木村三郎・日本大学芸術学部助教授(日仏美術史学会会員)が受賞されました。同賞の表彰式とレセプションが六月二十一日(火)午後六時より八時まで、毎日新聞社本社九階の「アラスカ」で行なわれ、日仏会館理事長正宗猪早夫、毎日新聞社社長渡辺襄の二氏のほか、駐日フランス大使、ルイ・ヴィトン・ジャパン社社長等数十名がつどい、祝辞その他でお二人の受賞を祝いました。その時に配布された「選考結果」の報告を(必要箇所フランス文を添えて)次に転載致します。

第五回 渋沢・クロードル賞選考結果

(日本側選考委員会報告)

「日本側委員会では、各応募分野の専門委員の意見にもとづき、審議の結果、全員一致でこの賞を

坪井善明氏(一九四八年生、北海道大学教授)の著作(仏文)

「フランスと中国に立ち向う越南帝国」(ラルマッター社、一九

八七年刊)

Yoshiharu TSUBOI, *L'Empire Vietnamien, face à la France et à la Chine, 1847-1875* (L'Harmattan, Paris, 1987)

に、またルイ・ヴィトン・シャパン社寄贈による特別賞を

木村三郎氏（一九四八年生、日本大学助教授）の翻訳

世界の巨匠シリーズ「ダヴィッド」（美術出版社、一九八七年刊）

解説文

Prix spécial offert par la Maison Louis Vuitton, Japan :

Saburo KIMURA, traducteur du texte de Monsieur Luc de NANTEUIL de l'Album "DAVID" (Edition Cercle d'Art, Paris, 1987)

に、それぞれ贈呈することを決定した。

坪井氏の著作は、シヨルシユ・コンドミナス Georges CONDO.

MINAS 教授指導による 3e cycle の学位論文にもとづくもので、フランスおよび日本各地にある一次史料により、フランスに制圧される直前の越南帝国の事情が、ヴェトナムの側から明らかにされている。今までこの時代のヴェトナム史を内部から扱ったものはほとんどなく、本書はアジア史に新知見をもたらしたものである。

「世界の巨匠シリーズ」は国際出版の豪華な美術双書であるが、「ダヴィッド」に添えられているリュック・ド・ナントゥイユの解説は、絵画の内容とともに、画家の生涯と時代の背景を興味深く述べている。木村氏は、多くの参考文献にも当りつつそれを翻訳し、日本のものも含む詳細な文献表を巻末に加えられた。フランスの重要な画家のひとりであるダヴィッドの全容は、今まで日本に伝えられてい

かっただけに、この労作にはフランス美術紹介の上からも貴重な意義が認められる。」

坪井氏は日仏東洋学会の会員であり、従って本学会としては去年の彌永信美会員に続いての受賞であり、めでたい限りです。候補作品は多く、しかもいずれも力作揃いであり、審査経過を述べられた杉捷夫日本学士院会員の言葉によれば、決定までには「本年はかなり骨がおれた。いいものがほかにもあったということである」由です。詳しくは今年七月十四日（木）の毎日新聞朝刊に載っていますが、ここでは Nouvelles (日仏会館・日仏協会 通信) 四一号（一九八八・七）から坪井氏の「受賞のことば」を転載しておきます。

「駐日フランス大使閣下、毎日新聞社社長、日仏会館理事長をはじめ、御臨席の皆様、本日、この場で渋沢・クロードル賞の受賞者として皆様に御挨拶させて頂くことを心から光栄に存じます。

この賞は、私が昨年パリのラルマタン出版社からフランス語で出版した『フランスと中国に立ち向かうヴェトナム帝国』という本に対して与えられました。実を言って、私一人だけがこの賞をいただくという榮譽は不公平なものです。というのも、この本は、日本人の諸先生や友人だけでなく、フランス人の諸先生と友人、ヴェトナムの先生方・友人の献身的な協力でようやく日の目を見たからです。私一人の力ではとうていなしえなかつたものです。

この本は三国の国際協力の結果であり、国境をこえた友情の具体的な記念でもあります。従って、今晚はこの本を書くのに私を助けて下さった日・仏・越の諸先生・友人達の代表として、榮譽ある渋沢・クロードル賞を拝受したいと思います。

ここで一つ、本の制作に関するエピソードをお話しします。この本は、私のフランスの指導教官のコンドミナス教授の忠告から始まっています。一九七七年にフランスに留学した折、コンドミナス教授の部屋にお伺いして、指導教官をお願いした時のことです。コンドミナス教授は次のようにおっしゃいました。「日本人の留学生は皆よく勉強する。しかし、二～三年の留学を終えたらフランス語で一本の論文も書かずにフランスから帰ってしまう。全くフランスに貢献していない。『貢献する』とは研究成果をフランス語で書いて、我々にもその成果を享受共有させてくれることだ。あなたは是非フランス語で論文を書いてほしい」。この教えに従って、論文作成に五年の歳月をかけました。

フランス語で論文を書くこと、フランス語の本を出版すること、これは私みたいなの、特にフランス語の専門家でないものにとっては、非常に難しいものです。けれどもそれは大変魅力的なことでした。何が魅力的かという点、まず第一に、ヴェトナム人が私の本を読むことができ、私が書いたことについて、厳しい批判をしてくれます。フランス語の本を通じて、ヴェトナム人より深く、その国についてのコミュニケーションが出来ることです。魅力的な第二の点は、フランス語を使うことによって、フランス人の物の考え方や暮らし方がよりよく理

解できる点です。私はフランス語を習得する機会を与えて下さったすべての方々に心より感謝いたします。

この渋沢・クロードル賞を戴くことは、アジア研究者として、私にとって大変意義深いものです。ポール・クロードルは、単に詩人、作家、劇作家、外交官であるばかりでなく、彼自身もまたアジアの専門家でありました。クロードルは長い年月を中国もしくは日本というアジアで暮らしました。アジアについての本『東方の知識』も書いています。この渋沢・クロードル賞は、聞くところによれば、主に、フランスの専門家もしくは日本の専門家に与えられてきたということですが。私は、日本でもフランスでもない、第三国のヴェトナムに関する歴史の仕事を選んで頂いた審査員の方々に特に御礼を申し上げたいと思いますし、他のすべてのフランス語を使うアジア研究者と、この喜びを分かちあいたいと思います。

駐日フランス大使閣下、毎日新聞社社長、日仏会館理事長および御臨席の皆様、今夜、木村さんと私のために、御臨席頂いたことを心より感謝申し上げます。皆様の前で今後ともますますアジア研究に精進を重ね、かつ、出来ればフランスと日本の協力関係をより発展させるために、微力ながら全力をつくすことをお誓い申し上げ、御礼のことばにかえさせて頂きます。

ありがとうございます。」

(坪井氏の著書は、日仏会館図書室に、VII. F/2/29の番号で入っています)

なお、同賞のフランス側受賞者は「九世紀初期における日本の天台宗の教義」を著したジャン・ノエル・ロベール Jean-Noël Robert 氏に決定し、六月二十九日、パリの日本大使館内において授賞式が行なわれました。その内容については、同じく毎日新聞七月十四日朝刊をご覧下さい。

同氏は、フランス国立学術研究センター研究員で、また、フランス国立高等研究院とパリ大学第七分校とで日本仏教史や漢文訓読について講義を受けています。欧米語は勿論のこと、日本語、現代中国語にも堪能で、前回の日仏ロックでもその非凡の才能をいかに発揮して日本人参加者を助けてくれました。今回のロックでも第一部会に参加し、日本仏教の論義について研究発表をされることになっています。

◎ 一九八七年度会員総会報告

今年三月十日（木）に早稲田大学・大隈会館（校友会館とも言う）で会員総会が開かれました。早大内に事務局のある学会には、大会開催費と懇親会費とに、大学から一定金額内で補助金が出るようになっていて、従って、今回も会場は早大施設内に取りました。

会員総会に先立ち評議員会が三時半から四時半まで一階和室で開かれました。会員総会は五〜六時半に一階二号洋室で開かれ、それぞれ

議題は重複する面が多いので、一括して次に記します。

高崎直道氏の開会の辞のあと、司会には浜田正美氏（司会補助に前田繁樹幹事）が任じて、次の議題が議せられました。

①第五回日仏ロック（十月三日〜十四日）への東洋学会準備状況

この議題は、内容から見ればむしろ「報告事項」に含まれるものかもしれませんが、今回の総会の最重要題目であり、会員諸氏から質問や討論がおこることが予想されましたため、いちおう議題に入れておきました。この議題につきましては、すでに二月十五日の総会の案内状と総会次第との中に、次の文が印刷して配布されましたので、後々の記録と、そしてまた、その後の新入会員の方々のために、それをここに再録しておきます。

第一部会 「日・中の宗教文化の交流」

代表―酒井忠夫

責任者―福井文雅

実務担当―山田利明

〔関西地区世話人―坂出祥伸〕

● 第一部会では只今参加者を公募しています。御希望の方は、前号の『通信』をお読みの上、右の四名の内の誰かに宛てて、お申し込み下さい。締切は六月末。但し、会場と宿泊設備との関係から、人数の制限をさせて頂くことになるかも知れず、その場合はどうか悪しからずお許し下さい。

第二部会 「中央アジア諸言語写本」

代表―羽田 明

責任者―大地原豊

実務担当—中谷英明

● 第二部会で発表を希望される方も、第一部会と同様で、六月末までに中谷英明(〒565 吹田市新芦屋上二四—一—二〇)宛てでお申し込み下さい。

〔前回の詳細については『通信』第五号をお読み下さい〕

②会計報告

会計決算報告の説明には田中文雄会計幹事が当り、池田温監事が監査報告を述べ、承認されました。予算(案)では、会員名簿の更新作製のための経費が計上され、その代りに『日仏学会通信』は一九八八年度中は第九号だけの発刊に限ることが説明され、承認を得ました。

早稲田大学から事務経費として五万円の補助金が出ていますが、それは早大内に本学会事務局がおかれているからで、事務局が他機関へ移ればそれは無くなります。従って、学会の健全な財政運営を考える場合には、それは右の予・決算の経常費に入れることは出来ず、あくまでも補助費(事務局への補助金)ですので、別会計とし、その収支、領収書などは総会で閲覧に供するにとどめました。

なお、本学会の新発足以来、つまり昭和五八年七月二十二日以来、一度も学会費を払わないで『通信』は受けとっている方(々)のいることが、田中会計幹事の努力で最近判りました。その扱い方は別に議題になるでしょう。

③日仏学者交換事業に対する候補者推薦の件

日仏会館の会員である日本の学者で、フランスの大学その他で講演、セミナー等を開き、日本の研究状況をフランスに伝えていただけの方若干名に、文部省補助金で渡仏していただく、という制度があります。日仏会館には日仏海洋学会とか日仏法学会などの関連学会が二十三ありますので、他からも候補者が出れば通るかどうかは判りませんが、あればその候補者を御推薦下さるよう、これまでの『通信』にたびたび関連記事を載せてきましたが、今春、某会員が自薦してこられました。

そこで、自薦の名前は伏せて、その扱い方を評議員会と総会とはなかったのですが結論が出ず、会長と名誉会長との三人の御意見を徴して、場合によっては多数決で決めていただくことに総会席上では決まり、その連絡役は主幹(事務局長)に一任されました。

以上が総会での経過ですが、ここには併せて、その結果を報告しておきます——候補者推薦の期限は四月十五日でしたので、大至急、榎一雄会長、羽田明、山本達郎の両名誉会長の間で協議していただいた結果、今回の自薦の件は見送られることになりました。その理由につきまして、榎会長が羽田、山本両名誉会長に出された四月十三日付の書翰がありますので、榎会長の許可を得て、左に摘記いたします。同様な問題が今後起きた場合に重要な参考資料にもなりましょう。

〔(前略) 日仏東洋学会といたしましたは、今年度は候補者の推薦を行わず、来年度に持越したいと存じます。推薦を来年度に持越し

日 仏 東 洋 学 会

昭和62年度会計決算報告

日仏東洋学会63年度予算(案)

収入の部	
普通会員会費	180,000円
前年度繰越金	81,073円
日仏会館補助金	40,000円
合 計	301,073円

支出の部	
印刷費	110,000円
会員名簿作製費	50,000円
通信費	50,000円
会議費	25,000円
消耗品費	30,000円
支払報酬費	20,000円
雑 費	16,073円
合 計	301,073円

収 入

科 目	予算額	決算額	対 予 算 超 過 額
普通会員会費	180,000	177,000	-3,000
前年度繰越金	65,943	65,943	0
日仏会館補助金	0	40,000	+40,000
利 子	800	0	-800
合 計	246,743	282,943	+36,200

支 出

科 目	予算額	決算額	対 予 算 超 過 額
印 刷 費	110,000	73,470	-36,530
通 信 費	50,000	48,340	-1,660
会 議 費	25,000	19,170	-5,830
消 耗 品 費	25,000	40,890	+15,890
支 払 報 酬 費	20,000	20,000	0
雑 費	16,743	0	-16,743
合 計	246,743	201,870	-44,873

総収入－総支出＝282,943－201,870＝81,073

昭和62年度残金81,073円は、昭和63年度への繰越金とする。

以上の如く相違ありません。

昭和63年3月10日

日仏東洋学会会計監事 池田 温
日仏東洋学会会計監事 原 實

ました理由は、候補推薦の制度が確立されていないためで、今年度中にこの体制をはっきりさせ、その上で候補を推したいと考えるからです。(中略)

実は日仏東洋学会の結成以前から日仏学者の交換が行われ、日仏会館と故辻直四郎先生との間で人選が行われ、第一回榎一雄、第二回池田温の両氏が交換学者として派遣されましたが、第三回目に某氏「具体的氏名が書いてあるが、ここでは伏せる」が推薦されましたのに対し、候補としてのみ受け入れられ派遣の実現に至らず今日に及んで居ります。その理由は明かではありませんが、日仏東洋学会としてはまず同氏を第一回の候補に推薦する線で事を運びたいと考えます。(中略)今年度は他の人を推薦することも考えられないではありませんが、日仏東洋学会としてはその結成以前のことではあっても、一度推薦した人事はそれが実現するまで反覆推薦を繰返したいと存じます。

自薦は候補を審査する手がかりとして受入れますが、自薦が直ちに学会の推薦に結びつくことは飽くまでも避けるべきであると思いません。(後略)

右の書翰に関連して、今回の『通信』あてにさらに詳しいプランを榎会長からお寄せいただきましたので、これも今後の参考資料として記録しておきます。

(一) 日仏交換学者の候補の詮衡推薦については、まだ制度が確立していない。まづそれを確立することが必要である。

(二) 試案の一つとして二人の名誉会長、一人の会長計三人を常任委員とし、一般会員の中から同数の三人を各年度交替に臨時委員とし、これら六人で詮衡に当り、会長が候補を推薦することにしては如何がであろうか。なお臨時委員は留任を妨げない。

(三) 推薦された人が実際に渡仏するか否かについては、別の機関或いは機構で決定されるのであろうが、日仏東洋学会からもこれに参加し得るようには出来ないものであろうか。」

総会報告事項

① 渋沢・クロード賞候補作品募集

三月三十一日締切。昭和六一年一月〜六二年十二月の業績。

これが、右に書いた坪井善明氏他の受賞につながりました。

② 『日仏文化』第五〇号刊行

J・ジェルネ、福井文雅、明神洋共訳「国家について」、その他、

東洋学関係論文収載

③ 新入会員紹介 会員住所等変更(↓本号の該当欄参照)

④ 『通信』次号編集について

⑤ 次回(一九八八年度)総会の開催について

一九八九年三月(今年と昨年とに準じて十日前後)に京都で開催の予定。

以上で総会は終了し、閉会の辞(中村璋八氏)のあと、隣室に移って六時半〜八時、会員の懇親会になりました。田中文雄、前田繁樹両

新幹事の司会で、新入会員の自己紹介があり、関西地区からわざわざ上京された中谷、山本両氏をかこんで歓談の時間が続きました。この総会への出席の返事はこれまでで一番多く、四〇人近かったことが印象的です。

◎ 「儒教とアジア社会」シンポジウム

今年九月二十八日(水)から十月一日(土)にかけて、上智大学アジア文化研究所主催で、上智大学七五周年記念国際シンポジウム・日本学術振興会「国際共同研究・宗教とアジア社会」が上智大学七号館十四階特別会議室で開かれる。このテーマは「儒教とアジア社会」Confucianisme et Sociétés Asiatiques であり、この題名がフランス語であることからすでに判るように、関係者の大半はフランス人であり、ヴァンデルメルシユ、ジェルネ両教授も参加する。日本側出席者には、石沢良昭、坪井善明両氏の日仏東洋学会会員も含まれている。関心ある方々は、その事務局の上智大学アジア文化研究所 03—238—3697 に連絡をとりたい。

ジェルネ J. Gernet 教授は、その機会に東方学会と東洋文庫共催の公開講演会で次の話をするようになった。日時は九月三〇日(金)六時より、会場は駒込・東洋文庫である。演題は「王夫之の思想における哲学と智慧との関係について」*A propos des rapports entre philosophie et sagesse dans la pensée de Wang Fuzhi* (通訳)

き)。

◎ 第五回日仏コロックについて

日仏東洋学会のうちから組織された第一部会「日中の宗教文化の交流 *Les échanges culturels entre les religions chinoises et japonaises*」の第一次プログラム案が、七月十二日付で日仏東洋学会会員全員と日仏会館などの関係諸機関すべてに配送された。それをもとに参加希望者の日程を調整し、プログラム最終案は九月中旬に関係者に届くことになっている。連絡先は山田利明氏 03—923—1963

第二部会「中央アジア諸言語文書 *Documents et Archives provenant de l'Asie centrale*」の日仏両文による詳細なプログラムは、五月十五日付で配布済みである。連絡先は中谷英明氏 06—878—0891 右の両部会はそれぞれ独立したプログラムと事務局とをもち、いわば別個の学会である。最初は、第一部会のあとに第二部会が連続する日程であったが、偶然にも並行する結果となった。フランス人参加者の滞在費負担やコロック会期前後の公式スケジュール等を考慮すると、自然に並行する結果にならざるを得なかったにすぎず、意図的にわざわざ並行させたわけではない。両方に参加したい希望者がそのように誤解しては、どちらの立案者にとっても不本意であろうから、特にその点は書き添えておきたい。

◎ 第五回日仏学術シンポジウム

参加部門

日仏会館主催による日仏学術シンポジウムは、一九七六年以来、日仏両国を交互に会場として開いている多領域のシンポジウムである。今回開催が予定されている部門と各部門の題は次のようである。

- 数 学：解析的整数論
- 化 学：光化学の最近の進歩と技術的応用
- 地理学：農村の非農業化に関する日仏の比較と地理学的研究
- 海洋学：温排水、他二テーマ
- 法 学：紛争解決の機構と問題点
- 東洋学Ⅰ：日中の宗教文化の交流
- 東洋学Ⅱ：中央アジア由来文書
- 社会学：教育と階層
- 経済学：海外民間投資の比較検討
- 医 学：癌の画像医学

◎ 会 員 消 息

新入会員（八月二〇日現在）

○ 石田憲司 ISIDA Kenji 国士館大学教養部 非常勤講師〔明代

道教史〕

〒三五九 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘六―二八〇―三三

☎〇四二九―二八―四二三六

○ 金谷 治 KANAYA, Osamu 追手門学院大学教授〔中国哲学〕

〒五一九―一四 三重県阿山郡伊賀町川西 ☎〇五九五―四五

―三七六九

○ 館野正美 TATENNO Masami 日本大学文理学部 専任講師

〔中国哲学（古代）〕

〒二二三 神奈川県川崎市宮前区小台一―一九―五 鷺沼東急

ドエル五〇五 ☎〇四四―八八―二四一八

○ 増尾伸一郎 MASUO Shinichiro 大阪女子短期大学 専任講

師〔日本古代宗教文化史〕

〒二四一 神奈川県横浜市旭区二俣川二―一四―八七 二俣川

ホームズ四〇五 ☎〇四五―三九―一六五四九

○ 松本浩一 MATSUMOTO Koichi 図書館情報大学専任講師

〔中国道教儀礼〕

〒三〇五 茨城県つくば市吾妻二―七一―〇一 ☎〇二九

八一五―三三三〇四

○ 吉田敏行 YOSHIDA Toshiyuki 大正大学大学院在学〔天台学〕

〒一六六 東京都杉並区堀ノ内三―一三―一〇一 ☎〇

三―三一八―四三三三二

○ 遊佐 昇 YUSA Noboru 明海大学講師〔唐代道教史〕

〒三四九〇一 埼玉県蓮田市馬込八〇〇 ビューパレーA—

二二四 ☎〇四八七—六八一—五二〇

※ 住所・身分変更

福島仁会員は四月から横浜のフェリス女学院大学講師に就任され、住所も左記のように変更になった。

〒一三三二 横浜市南区永田みなみ台二一〇—二〇二

☎〇四五—七一四—八六七三

日仏会館学長オギュスタン・ベルク教授は任期満了につき七月末に離日。代って九月にユベール・セカルディ Hubert Cécaldi 教授が新学長として着任された。日仏会館学長は、その職責上から本学長の名誉会長の一人になることに会則で決められている。

(退会——高田修)

日本学術会議関係

第十四期日本学術会議会員に、本学会会員からは次の諸氏が選出された。(敬称略)

楠山春樹(哲学) 平川彰(哲学) 神田信夫(歴史学)

竺沙雅章(歴史学) 桜井清彦(考古学)

『日本学術会議月報』の中では、第28巻・第11号(一九八七年十一月号)の中の「医療技術と人間の生命特別委員会報告—脳死に関する見解」、第29巻・第一号(一九八八年一月号)の中の日本学術会議会長・近藤次郎「年頭所感—ワインとウィスキー」、二国間学術交流委員会報告—「シンガポール班報告」などが本学会と関係する文章で

ある。

訃報

ルネ・ド・ベルヴァル René de Berval (一九一—一九八七)氏
ベルヴァル氏は実に教奇な運命をたどった文人であり、編集者であり、勇士であった。従って、氏については別に *nécrologie* (追悼記事) が書かれるべきであろう。ここでは、一九八七年十二月二八日に秋葉原の三井記念病院で亡くなったあと、今年二月十一日二時から浅草五重塔一階の道場で、仏式によって追悼の葬儀が催されたことを記すにとどめる。駐日フランス大使をはじめとして、本学会からも秋山光和、加藤周一、京戸慈光、ユベール・デュルト、福井文雅等が参列した。この葬儀の挙行には、加藤周一、京戸慈光(浅草寺日音院)、大谷暢順等の諸氏、早大大学院学生諸君の尽力によるところが大きい。

岩生成一会員

東洋学関係雑誌一覧

東京・日仏会館図書室には、東洋学に関して左のように多くの学術雑誌があります。学会員のいこいの場としての「フォワイエ」同様、もっと利用されて良いはずで、誌名のみ列挙しておきます。

ORIENTALISM

Acta Asiatica.—Tokyo.

- Alt-Orientalische Forschungen. (Academie der Wissenschaften der DDR...)—Berlin.
 Annali.—Naples.
 Archiv orientální.—Prague.
 Asian folklore studies.—Nagoya.
 Asie et Afrique d'aujourd'hui.—Moscou.
 Bulletin de l'Ecole française d'Extrême-Orient.
 Cahiers d'Extrême-Asie: revue de l'Ecole française d'Extrême-Orient, Section de Kyoto.
 Cahiers du Japon.—Tokyo.
 East Asian cultural studies.—Tokyo.
 East and West.—Rome.
 Extrême-Orient, Extrême-Occident: cahiers de recherches comparatives.
 Harvard Journal of Asiatic studies.—Cambridge.
 Journal asiatique.
 Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland.—Londres.
 Korea Journal.—Séoul.
 Monumenta Nipponica.—Tokyo.
 Monumenta Serica.—St. Augustin über Siegburg.
 The Museum of Far Eastern Antiquities: bulletin.—Stockholm.
 Nihon gakuho.—Toyonaka.
 Panorasié: bulletin des étudiants du Centre d'études de l'Asie de l'Est.—Montréal.
 Recherches sur l'Asie de l'Est: cahiers du Centre d'études de l'Asie de l'Est.—Montréal.
 Waseda Journal of Asian Studies.—Tokyo.

会員新刊紹介

二月十五日の総会案内状の末尾に、またそれ以前からも諸通信の中で、会員各位からの報告をお願いしておきましたところ、左のような情報を得ました。たびたび出る話ですが、本学会の大きな活動は日本とフランスとの間の学術上の窓口になることであるとすれば、このような情報はその貴重な一部となりましょう。

勿論、遺漏も少なくないことと思われまします。どうか御教示下さい。

山口瑞鳳監修『チベットの仏教と社会』(昭61・11 春秋社)

宮崎市定『アジア史概説』(増補重版、中公文庫、昭62・2 中央公

論社)

彌永信美『幻想の東洋——オリエンタリズムの系譜』(62・1 青土

社)

中村璋八『日本陰陽道書の研究』(62・2 汲古書院)

福井文雅『般若心経の歴史的研究』(62・2 春秋社)

伊藤光遠著、坂出祥伸解説『煉丹修養法』(復刻版、谷口書房、62・

5)

宮崎市定『科挙史』(東洋文庫470 補訂復刻版、62・6 平凡社)

山口瑞鳳『チベット』上(62・6 東大出版会、下巻は今年3月)

石沢良昭・中島節子共訳『クメールの彫像』(62・7 連合出版)

興膳 宏(訳注)『弘法大師空海全集』第五卷詩 文篇一 文鏡秘府論

文筆眼心抄(62・9 筑摩書房)

『高崎直道博士還暦記念論集 インド学仏教学論集』(62・10 春秋社)
BERQUE, Augustin, *La qualité de la ville* (62, 11 Kinokuniya-
Japan; Peeters Belgium)

坂出祥伸編『中国古代養生思想の研究』(63・2 平河出版社)

楠山春樹訳注『淮南子』下(63・6 明治書院)

高橋 稔『中国説話文学の誕生』(63・7 東方書店)

新・会員名簿作製について

本学会が新発足しました時、「日仏東洋学会会員名簿」(一九八五年三月現在)を作りましたが、すでにかんりの変更が生じたので、第五回コロックをきっかけに、それを更新することになり、今年三月の総会で承認を得ました。その代りに、『学会通信』第十号の発刊は次年度にのびします。その処置は、もっぱら財政上の理由によります。そこで、会員各位には同封の葉書に必要事項御記入の上、至急学会事務局あてに御返送下さい。

編集後記

○ 三月の会員総会の報告を含めての『通信』の発刊が今頃になってしまい、申し訳ない気が致しますが、しかし、渋沢・クロード賞の結果報告などを待っていますと、年度中の第一号はどうしても夏休み後の発刊になってしまうのも仕方ないような気も致します。諸事情、御賢察下さい。

○ 二年連続して、本学会会員が渋沢・クロード賞の受賞者に選ばれました。年令制限がありますので、四二歳以前の会員各位がさらに頑張られますよう期待する次第です。

○ 会員名簿を新しくしますので、返信用葉書を忘れずに御投函下さい。

○ 今年度の総会は、来年三月に京都で久しぶりに開かれる予定です。

○ いつもながらの無理な注文にも拘わらず、能率よく印刷刊行して下さった早大印刷所の関係各位、また、会員総会や事務局に補助金を毎年支給して下さった早稲田大学に、この紙面を借りて厚く感謝申し上げます。(福井文雅)

日仏東洋学会通信 第九号

一九八八(昭和六三)年九月二十日発行

編集兼
発行者 日 仏 東 洋 学 会

代 表 榎 一 雄

印刷所 〒160 東京都新宿区西早稲田一―六―一
株式会社 早稲田大学印刷所
発行所 〒162 東京都新宿区戸山一―二四―一
電話 〇三―二〇三―三三〇八
早稲田大学 文学部八階
福井文雅研究室気付

日 仏 東 洋 学 会 事 務 局
電話 〇三―二〇三―四一四一
内線 七―二四八二・三二六一